

2024年(R6年)

8月

No. 386

# ひと は 福 祉 社 会

(ホムハ°-ジ アト ヲ) http://hitoha-fukushi.com (メ-ル アト ヲ) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひと は 福祉 会  
〒739-1203  
広島県安芸高田市向原町長田1857番地  
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

猛暑という表現では物足りない暑さが続きます。

ひと は フラッシュは、無認可作業所開設とほぼ時期を同じくして誕生し、今月号で386号となります。SNSなど昔とは比較にならないほど情報発信は手軽になりました。しかし手書きにこだわり(特別号除きます)、封入の手間や送料もかかりますが、直接手元に届け、少しでも思いが伝わるようにと続けています。

少しでもひと は フラッシュ発行の裏側を紹介させていただきます。ひと は は 運営理念に基づいた活動・意思決定をしています。その活動を通して職員の方に響いたエピソード等が編集委員の元に集まり、編集会議が開催され、検討を重ね、修正を依頼しながら練り上げられていきます。読みやすい字体にと研鑽し続けている委員もいます。

封入はきららの出番です。ゆっくりと一通ごとに封入され発送ボックスに並べられていきます。一人ひとりの顔を思い浮かべながら一筆のコメントもすべて手作業です。直接配達できるお宅へは自分たちで配ります。

フラッシュを通してひと は を知ってくれる人たちがたくさんいるから。まさに心を込めて届けるという意味は、同じひと は の仲間として本当に頭が下がります。

この度、後援会員の方に向けた会員カードを作成することになりました。あえてカードとして発行します。意図は一つです。もっとひと は を身近に感じてほしい。

きららが描いたイラストの中から職員や編集委員が選定したイラストをカードの顔として発行します。おそらく次回の特別号と一緒にお手元に届くと思います。

(事務局 寺尾真)

## 「風を受ける女の子」

画：池岡心



### 制作時のエピソード

去年の夏前、雑誌を見ながら描いた。躍動感を出すために、風になびいている髪を描いてはどうか? と田川先生よりアドバイスを受ける。その髪の毛、一本一本のすきまを塗る作業に時間がかかった。

### スタッフ紹介

名前 稲垣 弥生  
所属 ひと は 工房 ひと は 館

食べてみた朝ごはんは?

牛乳が好きなので  
しぼりたての牛乳を  
飲んでみたいです。



# 「はじめてかも」

毎日あんきの玄関を覗く三輪さん。最初は土足で入って冷蔵庫やら食器棚やら全部を見て回っていたけれど「靴脱いで入ってください」と言うと玄関先で脱いで入ってくるように。しばらくして玄関を開けて覗くだけに変わり、会議室が閉じていると何をしているのか気になって覗く、カレンダーがあれば素早く上がって月を替える、これが日常になっていた。今日は実習生が会議室を使用中、いつものように会議室を覗くのかと思いきや、私の顔を見て「んふふ〜」と笑って玄関を閉めて行った。真顔で閉めていくことはしょっちゅうだが、笑顔で玄関を閉めて行ったのは初めてかも。びっくりして私もつられて笑った。

(相談支援事業所もせい 矢口詠依子)

# 「いいかげん」

作業所の中尾元気さんは、活動前と活動後の帰宅まではあっぷで過ごされておられ、最近私の秘書をしてれています。朝はまず私の隣に自分で椅子を持ってきて、パソコンを指差されます。その後、日誌をプリントアウトすると、プリンターの音を聞いて取りに行かれます。また、帰宅までの時間に私が所用で外出すると、戻ってくるまで玄関で待たれていることも。様々な事に興味津々の中尾さんですから、私の仕事ぶりを見て「ソレ、なんかせにゃあいいけん」と思ったのでしょう。いい加減な私の性格を、満面の笑みで「いい加減」で支えてくれる中尾さんは私の自漫の秘書です。

(就労センターあっぷ 則川靖久)

# 「あなたの幸せって何？」

大澤さんに「夢を教えてください」とたずねました。「友達とおいしい食事をしてお話をしたい。それが幸せ」と笑って答えてくれました。外輪さんが旅行中、「幸福」と書かれた小さなお土産を選びました。(美しいのは小さな幸せよと、笑って言っているように感じました。皆ちよとした幸せを求めている。

今朝の日めくり「幸せだから笑うのではない。笑うから幸せになるのだ。笑うのが先」とありまして。

さあ、今日も一日、こちらから笑って支援しようとい心を新たにしています。

(共同ホームひとは 大畠茂之)

# ひとは40周年を前に

私たちがフリーマーケットデビューをしたのは、蒸し暑く雨もようの梅雨に入った東広島運動公園でした。「共同ホームを建てよう」ということになって、親も少しでも協力しよう、と思ったからです。思っていたよりも簡単ではなかったことはいうまでもありません。

「なんで私がこんな事せんといけんのか」とつい愚痴を言ってしまいました。すると文尚さんが「わたしも思うときがあるんよ」と。文尚さんは障害者に寄り添ってただ一直線にぶれない人だと思っていたのですが、苦しい時や困難なことに直面して心が迷うこともあったんだな。「誰にでもあることだから、みんなで一糸に頑張ろう」と言いたかったんだらうなと折りにふれ、あの頃、古着や陶器を車に積んで、あちこちのマーケットを回った人たちの顔と文尚さんのあの短い言葉を思い出して、胸が熱くなります。

(ひとは会 住川憲子)



# 編集後記

7月の午後、親子3人で我が家に。車椅子の彼は、11月無口。おんほい 了不を伝へた。長い手紙が届いた。一部のみ。スゴ一巻。9月は3回忌。ありがとう 晶さん

中尾川順子

21年6月26日

んまら	みあづんまお	くみゆい
かけあさ	とよにやぎ	れんうわ
あとし	すうつりん	るなでん
るるん	たくるいにが	ぼがすこ
いのが	だりとてあ、	く、。さ
おきず	うーこ、るお	もうびん
くのー	うあろおる	まんにい
りうと	うさつむあ	に、にし
あもだ	うまみたつ	いしいが
あまい	いてけくお	いしくし
まけす	だたーりー	いしとん
るたさ	るだあし	しまき、
りお今	とろいたとん	まじもる
うか	じうすまじ	あいと
さー	まぬくのや	あさき
さつ	んりいん	としも
あが	しとあん	いゆい
あ	このたさ	うごつ
あ	このたさ	てすし